

## 第3回安佐市民病院跡地活用検討協議会議事録

1 日 時 平成28年2月26日（金） 午後2時00分～午後3時50分

2 場 所 安佐北区役所4階講堂

### 3 出席者（五十音順（市職員を除く）、敬称略）

岩重 守（安佐北区コミュニティ交流協議会副会長）

大島 正彦（安佐北区コミュニティ交流協議会会長）

尾田 豊機（安佐北区コミュニティ交流協議会副会長）

中平 吉子（安佐北区コミュニティ交流協議会副会長）

坊 聡彦（可部地域町内会自治会連絡協議会幹事）

松井 修（可部地域町内会自治会連絡協議会幹事）

向井 文武（安佐北区コミュニティ交流協議会副会長）

阪谷 幸春（広島市企画総務局企画調整部長）

児玉 尚志（広島市安佐北区役所副区長）

### 4 議 事

- (1) 地域等からの意見の報告
- (2) 民間事業者への聞き取り調査の進捗状況
- (3) 跡地活用に関する意見の分類・整理

### 5 議事内容 以下のとおり。

#### < 開 会 >

大島座長 定刻になりましたので、ただいまから第3回安佐市民病院跡地活用検討協議会を開催いたします。  
皆さま方におかれましては、御多用の中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。  
これまで2回ほど開催いたしまして、各地域の委員におかれては、各地域での報告、あるいは意見の聴取など、非常に御苦勞されていらっしゃると思います。  
その中で、病院の跡地活用だけではなく、その他のまちづくりで、いろいろな意見をいただいているということは、安佐北区のまちづくりに対するアピール効果もあるということだと思っています。  
また、今日は、議員の先生方、あるいは傍聴の方など、多くお越しいただきありがとうございます。協議会の内容を聴かれて、また、別の面から我々に御意見をお寄せいただければと思っています。  
今回は議題が三つあります。その中から第一の議題に入らせていただきます。  
前回、各地域から意見を聴取いたしまして、その中で可部南学区については、現在、意見を取りまとめ中であると、そして次回（第3回）に報告したいということでしたので、まず、その内容について松井委員から報告をお願いします。

松井委員 可部南学区の松井でございます。  
可部南学区と言いましても、可部地域町内会自治会連絡協議会の幹事の一員であり、

この協議会に参加させていただいています。

今日、皆さまに御説明する内容は、あくまでも可部地域で取りまとめたアンケート結果の市長に対する提言、これを尊重し、これに基づいて地元ではどういう思いがあるのかということを委員の立場から把握するために行ったものです。

添付資料の四角囲みの資料1の中に資料1, 2, 3とあります。まず、資料3を御覧になっていただきたいのですが、今御説明したとおり可部地域から市長に提出した跡地活用の提言に基づいて、地域の皆さんがどのような思いを持っているか、その経緯等を踏まえて活用の提案例を示しています。

こちらは可部地域で提言した内容に則したもので、地域の皆さんが跡地活用にどのような思いを持っているかメモ形式で意見を述べていただくという方法をとりました。こちらから、こういう施設が考えられるということを提言すると、全く住民の思いが伝わってこないで、あくまでも記述方式で行いました。

自治会加入世帯として2,060世帯、年末からこのアンケート用紙を全戸に配布いたしましたして、新年早々に回収致しました。

回収率は27%と低いのですが、実はアンケート用紙の中に活用の提案例を記載したために、学区の14町内会・自治会の会長、役員、組長などから「ここまで書いてあるのなら、この提案に賛成か、反対かで良いのではないか。」という意見があり役員会で意見集約したところがあり、その一部を1枚の紙にまとめましたので、回収率が低い要因はそういうところにあります。

資料2を御覧になっていただきますと、このアンケートの回答を整理すると、やはり図書館やホール、しかも災害避難機能を持った施設、例えば区民文化センター的なもの、この中には細かい思いがたくさんあるのですが、181件ありました。反対は、「そういうものはいらないよ。」ということです。

次に学校関係が90件、というようにまとめています。

皆さんが思いを寄せていただいた件数が、一番下にあります1,170件、細かい思いをトータルするとこれだけあったということです。

それから資料1を御覧になっていただきますと、この協議会で既に始まっている議論と同じようなことですが、跡地活用にどのような施設や機能が必要かというアンケートから読み取れることは、こちらに書いてあるとおり、文化、医療、介護、福祉などが充実した場所であると、この場所がどのような場所であるかということを列記しています。

二番目は、安佐北区の現状からその環境状態はどうかということ、これも皆さん議論してきているところです。

その他配慮すべきことというのは、あくまでも安佐市民病院が全面移転ではなく、北館が残されて、これからの高齢者を中心とした地域包括ケア、緩和ケアという病床が残って、整備されてその中心医療が行われるということで、それを共有するような場所であるのではないかと、そういう立地であることは十分配慮すべきことですねということです。

それから可部南地区のみならず、市北部の拠点として、近隣の安佐南や県北西部、県境島根からも人を呼び込むような賑わいを創出する、しかも実現可能な提案であるべきですよということです。

細かいこともたくさん書いていますが、更に今後、JR可部線が延伸して将来10分間隔で運行されますと、現在の安佐市民病院の周辺には踏切が3か所あります。これが5分ごとに遮断されるということも念頭において、人を呼び込むにはどんな施設ができて結局のところ渋滞を招くのではないかと、そうした場合には、しっかりとした車と人の動線を考えるべきですねという声でした。

もう一つは、近隣にある東山保育所（市立可部東保育園）が老朽化しており、お母さん方が子供さんの送迎の際に非常に狭くて交通事故の面から危険な状況にあるため、移転建て替え、増強する必要があるのではないかとこの思いが寄せられています。

あとは、区民文化センターが地理的に不便であるというのは皆さん共通の認識でありました。将来、建替えや統合されるのではないかとこの思いから、これはやはり考えていかないとけないところですよ。

では、一番最初の資料1に戻っていただきたいのですが、アンケートからまとめた具体案です。

こちらは、14町内会・自治会長と可部南学区の社会福祉協議会、女性会、老人クラブ、体育協会、それから青少協など、17の団体がありますが、その団体の会長さん

などに集まっていただいて、アンケート結果を集約してまとめました。仮称ですが「安佐北交流プラザ・福祉キャンパス構想」という名称をつけています。安佐市民病院跡地活用に対する地域住民の思いや提言から、介護や看護など福祉を学ぶ大学、学部と介護付きの高齢者集合住宅の設置。さらに将来、安佐北区民文化センターが安佐南区に施設統合の可能性や老朽化、建て替え問題は避けられず、この際、10年、20年先を見据えて文化センターの役割や機能などを見直したうえで、市北部の文化、交流の拠点としてこれら施設を一体化した複合ビルの建設と階層式駐車場の整備が必要と考えられます。

あわせて敷地内に老朽化などの東山保育園（市立可部東保育園）を統合して、近隣住民や北館病院の職員らのための総合こども園、保育所のような施設ですが、これを設置し、施設内の施設が共有できる緑地・緑化広場を設置すること、これは北館と共有した安らぎの場が必要ではないかというアンケートからのまとめです。

これにより生活と学びが一緒になった新たな県、市民が集う交流の場・福祉モデル拠点を創出することが出来ます、という思いです。

その取組はどうするかと言いますと、大学等民間事業者と広島市の共同事業として、いわゆるプライベート・ファイナンス・イニシアチブ、PFI方式を採用して、施設建設などは、民間の企画提案、そして維持管理・運営するということと、資金を活用して事業展開していったらどうかという思いと、やはり子ども園や福祉施設も事業者公募型によって進めていくことが考えられるのではないですか、という思いがここに寄せられたということです。

呉のやまとミュージアムがありますが、このうち、てつのくじら館は、防衛省から民間活力を活用して民間の提案によってできています。こちらは鹿島建設ですかね。15年間は民間が管理運営すると、その後は国に返さないといけないという方法です。西区の区民文化センターもその上がマンションになっている。

これからの時代は、資金の問題もありますし、有効活用としてこういうことも考えられるのではないのでしょうか、という皆さんの思いです。

施設の概要や用地規模は、どうでしょうかということですが、敷地は2ヘクタールということですので、仮称ですが、安佐北交流プラザ・福祉キャンパスを担う複合ビルは、内容機能としては約10,000平方メートルを考えてみました。

その複合ビルの内容は1階に皆さんが集まる、あるいは協議会でも意見のありました地産地消の物産販売コーナー、そしてお年寄りから若い人まで気軽に立ち寄れる軽食やカフェがあって、しかも談話ができるようなスペースが必要ではないか、しかも、近隣から来るには自転車を置くようなスペースもいるよと、それから若い人も高齢者もこれからは健康維持のためにフィットネスやトレーニングできるようなスペースも必要ではないかと、しかも道の駅の機能のようなイベントスペースも必要ではないかということです。

2階は、大ホール、これは区民文化センターを見直して、北部の拠点としての興行、音響効果を十分に考えた集客力のあるホールが必要ではないかということです。

なぜかという松江・尾道が高速道路でつながって、広島北インターから直結して可部に下りてくることが出来ます。やはり、県北、それから県境島根の方を呼び込むような魅力のあるホールが必要ではないか、しかし、これからの時代、小人数で行う、あるいは集うには200人から300人規模のスタジオが必要ではないか、また、高齢化しても趣味を広げるためにはギャラリーが必要だと、何と言っても図書館や映像ライブラリーも必要ですねと。

3階は、大・小会議室、それから和室、大広間、これは災害避難所の機能を持っているよと、そして可部南小学校の体育館が水没危険区域であり、これでは将来が不安だということで、こうしたものを考えついたところです。音楽室、美術・工作実習室、練習室、これはやはり広響も呼び込めるようなホールということで、こういったことも考えられる。あるいは、児童室、映像ライブラリーを考えれば映写室も必要ということです。

その上の4階、5階は、福祉系の大学・学部を誘致する。これは広島市内でも近畿大学などいろいろな大学がビル内キャンパスを設けています。ビル内で専門科目、近くの本部キャンパスで教養課程ということで、コンパクトな大学運営ができるのではないかとありますし、企業に対する調査結果でも1社、大学等が望んでいるようですし、そういったことで可能性は活かせるのではないかと。

ホールの上には柱は建てることのできないので、L字型になるかも分かりませんが、

その更に6階以上は、高齢者の介護付き住宅が必要じゃないかと、そうしたことによって福祉系の大学、学部の学生たちの実習の場にもなるのではないかと。

そして、ホール等、こうした複合施設、複合ビルの中に催しがあれば、そうした高齢者も参加できるのではないかとということで、プラザ内の催事参加が望まれる施設の有効活用が期待できるということで、複合ビルというものはこれから考えられる一つの要素ではないかと。

しかし、駐車場が満足にないと、とてもではないが賑わいはできないということで、別枠で現在病院の職員に使われている駐車場の跡地対策としても借上げ駐車場を複合ビル等の予備駐車場として確保していただけないかという地権者及び周辺の皆さまの思いでした。

そして、保育児童の子ども園、こちらが3,500平方メートル、大体200人から300人規模ということで、広島県庁舎の中にも企業内保育所があり、今時代の先端を行くようなことでありますし、そういったことも考える一つの要素じゃないかということです。

更に、北館とこれら複合ビル、あるいは、子ども園を繋ぐ、集い憩いの緑地広場が必要ではないかと、それが2,500平方メートル、トータルで2ヘクタールということです。

その他、有効活用策の考察として、やはり施設出入口の位置の検討、これが重要ですよと、と言いますのは、現在、病院入口が54号から真直ぐ直線になっています。それを左に向けて、現在救急車が入ってくる入口がありますが、そちら側、左側に振り返り込んで入口を設けて、出口は反対の現在の入口の右側に設けて入口と出口を分ける。

それからホールができれば、楽屋口への関係車両の出入口が必要ですよということで、土手側にこうしたものがいいのではないかと、しかも路線バスや循環低床バスなどの停留や回転場所が必要ではないかなという思いですね。

そして、踏切の渋滞を考えれば54号対策で、高陽可部線を上原橋から可部バイパスへの延伸、これはやはり重要な課題になってくるのではないかとということです。

さらに、皆さんの思いは、北館病院機能の充実と将来性ということで、診療科目や健診等、そして経営主体は病院機構が望まれるという思いが寄せられました。

(松井委員手持ちの図面を指し示しながら)そして、ざっと敷地を考えてみましたら、バスや車が回転できるように現在の道路を5メートル下げて敷地内に取り入れて道路の幅を広げて、タクシー等が駐留できる駐車場に入る広場、低床バスの中型バスが寄って、回転して出て行けるよう、いろいろ考えています。

ここには緑地スペースはありませんが、車両回転場所を無くして駐車場を西側に下げれば十分北館との間にスペースができるということで、皆さん一生懸命思いは寄せられています。

ただし、絶対これをやりなさいというものではなく、住民の皆さんの思いですので、これから協議会で皆さんと一緒にこうした思いを組み込みながら、あるいは事業者アンケートを出すなど、そうした事業者の思いと皆さんの思いを一生懸命照らし合わせながら十分に協議、検討していけば、いいものができるのではないかとということです。

以上、アンケートの結果からの地域の皆さんの思いです。

もう一点は、商店会、18の経営者がいらっしゃいますが、この方たちはやはり、生活に直結する問題でありますので、お金が落ちないと困られます。若い学生さんではお金が落ちないと、困るという率直な思いと、まだまだ病院についても、実は議会が承認し、市長の思いで、今移転先の調査にかかっていますが、調査がしっかりまとまってないし、移転先の病院のレイアウトとか、内容が市民に知らされていないから、まだ移転は、決着したと思っていないという商店の皆さんの思いがあるのです。

しかし、市長の提案し、議会が承認したし、跡地というものは北館が残されるし、有効に考えようということで議論は行われています。

そのようなことでした。ありがとうございました。

大畠座長

はい、松井委員、ありがとうございました。

この件に関しまして可部自治連の坊会長から何か補足説明があればお願いします。

坊 委 員

先日、私共、可部地域の自治会連合会の会合がありまして、このことについては、先

ほど松井委員から説明がありましたとおり、全体の会議の中で検討いただきました。その中では、先ほど松井委員もおっしゃったのですが、可部7学区として先に市長に提言したものを基本とするということは、皆さん了解されました。これは、誰も異論をはさむものではなかったものですから、一可部南学区の意見、思いということで、あくまでも前回の提言の中でのということになりましたので、そのことについては誤解の無いようにお願いしたいと思います。決して可部の7学区が争っているというイメージでとらえることのないように、あくまでも可部7学区の思いは、一番最初に提言したものであると理解しています。ただ、アンケートの中の区民文化センターの問題、これは多く寄せられていましたので、これをどうするのかということは行政側にも基本的な方針があらうかと思いますので、1回御意見を聞かせていただきたいという声はありましたので、その点をお願いしたいと思います。

大畠座長

ありがとうございました。  
その質問につきましては、中平委員からも資料が提出されていますので、中平委員の説明のあと、伺いたいと思います。  
中平委員、よろしくお願いします。

中平委員

失礼します。私からの最後の提案なのですが、地元の町内会長さんや社協の役員さん、民生委員さんなどに伺った意見を持って参りました。  
読ませていただきたいのですが、よろしいでしょうか。  
まず、一つは、すぐに良い案は浮かばないが、経費の無駄遣いにつながるので、拙速に事を進める必要はないと思う。  
本当に必要なものは何か熟慮を重ねた方が良い。  
次に、広島市の北側に住んでいる市民を活気づけるようなものが欲しい。  
また、これからは高齢者が増えるので、独立した老人大学の校舎を作って欲しい。  
既にスーパーがあるので、民間商業施設は反対である。  
次に、若い世代が集まるので、看護・医療技術系の学校活用には賛成である。  
現在の図書館の場所は、奥に入り過ぎていて利用に不便な面があるので、図書館の併設は良いことだと思う。  
敷地内にはきれいに成長した桜の木があり、皆を楽しませてくれる。この桜の木を生かして、憩える公園等を整備するのも一案かと思う。  
最近、病院の近くに新しい住民の方が次々と増えている様子なので、交通の利便性等を考慮し、人々が集える場を提供して欲しい。  
映画館と講演会もできる多目的ホールが良いのではないかな。  
市民のみんなが集まり、使える場所として、多目的に使えるホールや広場が良いのではないかな。(子どもサークル、マルシェ、バザー、カフェ、産直市、サロン、発表会などで使用できる場所)  
安佐北区と県北西部を含む広域的な北の拠点化を目指すため、官民体制の大規模複合型商業施設の建設はどうか。(図書館、ホール、学校、保育施設、産直市場などを含む。)  
人を集める力の衰退に不安を持つ地域住民、跡地近隣の商店主を考慮し、住民には雇用創出、商店主には施設内出店ができるように、配慮してはどうか。  
というような意見をいただきました。以上でございます。

大畠座長

ありがとうございました。  
今、松井委員、中平委員から御報告がありました。  
この二点について、皆様方から御質問、御意見があれば伺いたいと思います。

それでは、こちらから指名させていただきます。  
向井委員、今の御意見について何かございますか。

向井委員

意見はどうかということでございますが、もっと吟味する必要がある、今すぐにここで、良し悪しを述べるのは差し控えたいと思います。  
まだ、次回もございますので、私はその方が良いのではないかと思います。

大畠座長            ありがとうございました。  
尾田委員いかがでしょうか。

尾田委員            今、松井委員から御提案のありました安佐北交流プラザですが、これを拝見すると、1回目、2回目の協議会で出た意見が大体含まれています。  
ただ、この中で私が思いますのは、本当にこういったものが完全に来てくれるのかどうか。軽食、カフェ、産直市、健康関係、そして大ホール的なものは市の管轄になるかと思います。  
あと、大学、福祉施設、こういったものが完全に来てくれるのだろうか。これらが本当に来てくれて、長続きしてくれればいいですが、来るということになれば相当な家賃、その他も求めないといけない。  
そういったことも十分考えないと見た目は、全ての機能が収まっているようにみえますが、そういった事業者が本当に来てくれるのかどうか、その辺りがちょっと気になったところです。

大畠座長            ありがとうございました。  
民間事業者については、議事2に参考になる情報があるかもしれません。  
岩重委員、何かございますか。

岩重委員            私が思うのは、幼児から高齢者、安佐北区民みんなが活用して賑わいのある施設が欲しいなと思います。  
ただ、今まで資料お出ししていますが、なかなかいい案も出ています。  
これをもう少し、絞って、実のあるものになっていけばいいなと感じています。以上です。

大畠座長            ありがとうございました。  
それでは、児玉委員何かございますか。

児玉委員            今回は、たくさんの御提案をしていただき、ありがとうございます。  
これまで、皆さんが北部の拠点として夢を語ってこられましたが、それが網羅されているような思いを直近地元の方も思っているんじゃないかなと感じました。  
ただ、少し気になったのは、それぞれの施設が拠点として機能を発揮するときに、この規模の中で中途半端にならないかなということを感じました。  
その辺りは、どの機能に絞っていくのか、あるいはどの機能を伸ばしていく必要があるのかを今後、議論する必要があるのかなと思いました。  
それから区民文化センターのことが少し出ていましたが、資料1の冒頭文書にある、「将来安佐北区民文化センターが安佐南区に施設統合の可能性」ということは、私は聞いたことはありません。  
また、賑わいのある施設ということを皆さんおっしゃっていると思います。最初に協議会をスタートした際の検討の視点である、今以上の賑わいがここで創出できる機能ということのを忘れずに進めていければと思います。以上でございます。

大畠座長            ありがとうございました。  
続きまして、阪谷委員、よろしくお願いします。

阪谷委員            松井委員、中平委員、本当にありがとうございました。  
前回の協議会で、跡地に導入する機能がその場所において、どういう必要性があるのかといった視点で皆様の御意見を聴かせていただきました。  
今日、御提案いただいた内容も、こういう理由でこういう施設・機能が良かった方ではないかということをよく理解できました。ありがとうございました。  
その中で、坊委員から安佐北区民文化センターについて今後どうしていくのか、行政の考えを伺いたいということでした。  
可部自治連から御提案いただきました中にも、区民文化センターの移転がありました。また、前回の協議会でも区民文化センターを移転してはどうかという御意見がございました。  
私共としては、跡地に配置する機能を整理していく中で、区民文化センターをどうす

るのか考えていきたいと思います。

その中で、皆さまと認識を共有したいことは、安佐北区民文化センターは昭和58年にできています。これは後ほど、資料3にも出てきます。

今、建設して32年が経過しています。

安佐市民病院の南館を解体するのが平成34年度くらいになります。

そうすると、7年先になりますが、それでもまだ40年経っていないという状況です。いずれ区民文化センターは老朽化し、更新の時期を迎えることになりますが、ではいつの段階で更新するのか、どのように更新するのかということは将来的に考えていかないとはいけません。

それらのことも合わせて、区民文化センターを跡地にどうするのか、考えていきたいと思っています。

ですから今現在は、全く白紙の状態ですが、跡地にどういった機能を整備するのが良いかを考える中で、我々としてもしっかり考えていきたいと思っています。以上です。

大畠座長

ありがとうございました。

では、坊委員お願いします。

坊 委 員

今、各委員の意見を聴いていまして感じたのは、施設が先なのか、あるいは人がたくさんここに住んでくれる対策をするのが先なのか、そこがどうも少しぼけているような気がします。

というのは、先の国勢調査の結果を見ますと、安佐北区の人口は、前回の国勢調査と比較すると約1万人弱減という結果になっています。

ということは、このまま右肩下がり、というようなことになっていくとどうしても活動人口が減ってくるということは、いろんな意味でマイナス要素になってくるのかなと思います。

そうすると、やはり人口を増やしていくことも考えていかないといけないし、市長がおっしゃっているように200万広島都市圏構想とか、あるいは周辺市町の受け皿ということを踏まえておられるのであれば、それなりの行政側の姿勢もないと単発的に安佐市民病院跡地にこんなものを作りましょうと言って作ってから、何年か経ったら廃止しましょうということになっても情けない話になってしまうので、やはりそこは行政側が言葉だけではなく、実際にどうなのか、例えば区役所の中に入っている組織が大分変わってきて、閑散としたところもあります。

そういったところが住民側から見てもどうなのかということも含めて考えないといけないのかなという気がいたします。

そういう意味で考えていくなれば、あの地域をどうしないといけないということも、これからもう少し詰めていく必要があるということを感じました。以上です。

大畠座長

ありがとうございました。

この議事1については、一旦ここまでとしまして、続きまして議事2「民間事業者への聞き取り調査の進捗状況」につきまして事務局からお願いします。

事 務 局

（「資料2 民間事業者への聞き取り調査の進捗状況」説明）（企画総務局政策企画課）

大畠座長

ありがとうございました。

今の説明につきまして、どなたか御意見、御質問はございますか。

松井委員、今日の御提案を踏まえて、何か感想等ございませんか。

松井委員

まだ、聞き取りが残っているということですが、今日、ここに書かれてある事業者については、かなり地域住民の思い、例えば、周辺住民が何を望んでいるかが重要である、という金融機関の意見、これはまさにそのとおりだと思いますし、やはり、一度か二度か、こういう民間事業者の方もお誘いして議論して、その中から何かいいアイデアをお互いに擦り合わせていくのも一つの方法だと思います。

非常にこの調査、中間ではありますが、ありがたいものだと思います。更にそれぞれの立場の人たちが思いを寄せ集めれば、専門的知識で我々が分からないところが、分かるようになるし、非常に大事ではないかと思っています。

本当にこの調査、ありがたいと思います。  
更に後２社の思いが分かってくれば、参考になるのではないかと思います。  
私共が寄せた思いの中にもありましたが、このＰＦＩやＰＰＰを用いた方が魅力的な施設ができるのではないかと金融機関の思い、こういったことは大いに参考になることですし、教育機関はたった１社ですが、北館との連携に非常に思いが寄せられていますので、これからの皆さんの思いが有効になるのではないかと感じました。

大畠座長            ありがとうございます。  
その他、ございませんか。

坊 委 員            残り２社あるということですが、積極性が高いところがあるようなので、この場に来ていただいて話を聴かせていただいてもいいのではないのでしょうか。  
この資料をみると、非常に教育機関が熱心なようなので、皆さんの前で話を聴いて、質問してみてもいいのではないかと思いますのですが、いかがでしょうか。

大畠座長            今、坊委員からありましたが、まだ、聞き取り調査が一部終わっていないので、次回というわけにはいかないかも知れませんが、その次の回あたりにどうでしょうか。

尾田委員            この一覧表を見てみると、教育機関の中で、学校という継続性を前提とした活用になるため、土地購入を考えていて２ヘクタールを希望と書いてあります。  
これは、おそらく静かな環境で教育するためには、ある程度のスペースが必要だということ、実際に参画したいという意見があれば、果たして複合ビルの中で教育できるのかどうか、そういったところも教育機関の方から話を聴いてみたいと思います。  
このアンケートから見ましたら２ヘクタールを使って、学校であれば運動場等も必要でしょうし、そういったものがどこまで必要なのかどうか、この跡地の中で、大学関係は非常に大きなウェイトを占めていますので、学校側としても中途半端な施設では嫌だと、というような意見が出るかも知れません。  
我々が教育機関や福祉関係との話をしても、その辺の事業者の本当の考え方を十分聴いておかないと、なかなか前には進みにくいのではないかなと思いました。

大畠座長            その辺を含めて、事務局で次回までに、あと残り２社の調査を進めていただけますか。

事 務 局            まだ、調査が終わっていませんので、一通り調査をさせていただいて、今お話のあった教育機関に対してプレゼンをすることの可能性、意向を私共から確認させていただこうと思います。  
無理にプレゼンをしてもらおうというわけにも参りませんので、まずは意向を確認して承諾が得られるのであれば、そういう場は設定したいと思います。（企画総務局政策企画課）

大畠座長            それでは、今の事務局の意見に従って、残り２社を含めて考えさせてもらうということにしたいと思います。  
それでは、議事３の跡地活用に関する意見の分類・整理について説明を事務局からお願います。

事 務 局            （「資料３ 跡地活用に関する意見の分類・整理」説明）（企画総務局政策企画課）

大畠座長            ありがとうございます。  
事務局で今まで皆様方から出た意見がある程度整理されています。  
この資料について、皆様方の御意見を聴きたいと思いますのでお願いします。  
では、順番に岩重委員からお願いします。

岩重委員            産直市は、やはり聞き取り調査でもありましたように、商品の安定供給が一番の問題になっているわけですが、この点は、今ありますＪＡ広島「とれたて元気市」やその他の産直市等の実態をよく勉強や研究する必要があると思います。

私自身も5, 6年前から出荷していますが、商品が無くなったら「もう商品がなくなるので、次を補給してください。」というような連絡が携帯にかかってくるシステムになっており、皆さん喜んで参加しています。

それと、教育機関が2ヘクタール、全部の土地が必要だということになると、我々、安佐北区住民の賑わいのもとがなくなるのではないかと懸念がします。

そこらも今後考慮して皆さんと検討したいと思います。

大畠座長

ありがとうございました。

では、尾田委員お願いします。

尾田委員

私は安佐に住んでいますが、この施設が地元へ寄与するものなのか、それとも安佐北区全体の活性化を考えるのか、その辺りの見極めが非常に大事だと思っています。確かに子供の遊び場とか産直市があれば人は集まりますが、遠方から行くだろうかという懸念が一つあります。

また、福祉関係との話もありましたが、私の地元のすぐ隣に後山というところに大きな福祉施設がありますが、地元の賑わいなどには全く関係ないというのが現状です。いくらいいものができても安佐北全体の活性化、地元の活性化を考えるうえで、施設や機能の特徴そのものも慎重によく吟味しないといけないと思います。

それと話は変わりますが、昔、現在の跡地の南側を買収するという話もございましたが、例えば学校が2ヘクタール必要だということになると、そういったところを教育機関に買ってもらって、例えば1ヘクタールを賑わいに使う、残り1ヘクタールを学校やそういったものを買ってもらってやっていくというのも、少し考えてみるべきなのかなと思います。

買うか買わないかは分かりませんが、そういったのも一つの案として考えてもいいのではないかと思います。

大畠座長

ありがとうございました。

では、中平委員お願いします。

中平委員

すばらしい提案を聴かせていただいて、なんだかもう出来上がったような気がしているのですが、実は先ほど皆さんおっしゃいましたけども、2ヘクタールの全てを教育機関にするのは反対ということをお願いします。

買っていただくのはいいのですが、全部が学校になってしまったのでは、賑わいも憩いも学びもできないように思います。

そういうことで、何とか賑わいも憩いも学びのできるものに話がまとまっていくことを私は望みます。

学校も1棟くらいのことだったらいいと思います。ただ、2ヘクタール全て使ってしまうと全部賑わいといっても、少し違うかと思っています。

今まで私達が言ってきたことがすばらしくまとまっていますので、何とか詰めていただきたいと思います。以上です。

大畠座長

ありがとうございました。

では、坊委員お願いします。

坊 委 員

たくさんの機能、施設に分類してもらって、正直どうコメントしていいのか今迷っています。

ただ、先ほど尾田委員が言われるように、跡地活用について近隣だけで済ませようとしているのか、安佐北区全体に大きく目を広げて考えるのか、もう少し広島市の北の拠点としての位置付けにするのかというところが重要になってくると思っています。というのは、今、地方創生と言われている中で、いくら立派な施設をつくっても活用されなければ、何にもならないわけです。

みんなが活用できて楽しめるものが一番いいのは分かっているのですが、みんなの意見を全部入れてしまうと、先ほど、松井委員がおっしゃっていたPFI方式のようなものになってしまう。

PFI方式がいいのかというと、やはりそれもいろいろ問題があるということになると、どれも決まりかねると思います。

どれも大なり小なり、メリットもあればデメリットもあるわけですから、そこは基本的なものをどうまちづくりの中で位置づけるのかということを考えないと総花的になって、結果的にどれもダメだったということになりかねません。

基本的にどういう形でこの施設を利用して安佐北区、あるいは北の拠点としてのまちづくりの中にどう活かすのかを考える必要があるという気がいたします。

というのは、可部地域が提言した中にも書いてあって、まちづくりの一環としてどう考えるかということが我々の提言だったわけですから、例えばこういう施設をつくって終わりという目の前のことだけを考えていたのでは無かったような気がします。

安佐北区全体、あるいは安佐南区の一部を取り込んだ全体を考えて、どうあるべきか、特に可部が中心と言っても、今人口的には高陽町も大きな街になっていますので、2極的に考えていけないといけない。

そうすると2ヘクタールをどう活用するのかということで我々の提言を出したような気がしますので、もう少し議論していかないと、これについてどう思うかと言われると少しコメントしにくいというのが意見です。

大畠座長

ありがとうございました。  
では、松井委員お願いします。

松井委員

皆さん貴重な意見だと思います。

やはり、可部町のまちづくりというよりは、むしろ安佐北区のまちづくりということと、機能を如何に集約したものにするかであろうかと思います。

今、ここに資料3でまとめていただいたのは、今まで出てきたものの分類整理でありますし、これからまた追加されると思いますが、いずれにしてもハコモノが一つだけでは賑わいは創出できないと思います。

やはり基本的には広域的に人を呼び込む安佐北のまちづくりにおいて、どういう機能が必要か皆さんと一緒に議論を進めていく必要があるかと思います。以上です。

大畠座長

ありがとうございました。  
では、向井委員お願いします。

向井委員

確かに坊委員が言われたように、可部1極でなくてということと、なぜ賑わいがいいのか、まんべんなくいいのいいのかということになってくると思います。

今の賑わいや学ぶところ、これは確かに活力も出てくるだろうし、そして子供たちが周辺から集まってくれば、住宅環境、空き家が多いところも人が住むだろうと、そして、先ほど松井委員が言われた子供や若い人が集まったのでは商売にならないとおっしゃっていましたが、これは別じゃないかと思います。

人が集まれば必ずその地域は発展すると思いますし、集まることによって近県や大学が無い地域から来た学生は、必ずどこかに寝泊まりしないといけないということになりますし、やはり地域が栄えるということは、学ぶところがないと栄えないと思います。そして、次は働くところだと思います。

また、中心地の可部辺りは、高陽とともに消費地になっているわけです。

この消費地に対してどのようなものを供給したらいいのかということで、産直市等はいいですよと、農業地帯、白木等が産直市を欲しいというのも、農作物は作っているがなかなか消費をする方法がない、手段が難しいということで、産直市があった方がいいと提案されていると思っていて、私もそう思います。

今、ここですぐ決めなくても、もう少しみんながよく吟味して決めたらどうだろうかと思っています。

やはり、10年先、15年先に、こんなものつくってどうするのかと言われるのでなく、つくって良かったと思えるものをつくらないといけないと思っています。  
それと、今のこの土地は見込がないのではなく、一部の事業者はお宝の土地だと言っておられます。  
市も考えてないと思いますが、この土地を住宅やマンションなどにすることは無いようにお願いしたいと思っています。

大畠座長            ありがとうございました。  
では、行政から阪谷委員お願いします。

阪谷委員            皆さんの御意見を伺って、まずは頭を整理したいと思います。  
ありがとうございました。

大畠座長            では、児玉委員お願いします。

児玉委員            もっと広域から見た場合かもしれませんが、この地域の印象は、やはり民間事業者等の反応にもあるように、荒下も含めた病院機能だというように思います。  
荒下で高度先進医療が提供され、それと繋ぐ機能として北館の地域包括ケア病棟なり病床をはじめとした医療機能が地域包括ケアシステムを担いながら、ここから大きな機能を発揮する中心になっていくと、それを他の委員も言われていたとおり、それぞれの方面の方が評価している。  
今、何に絞るべきかという意見は私も持ち合わせていませんが、その中心的な機能を少なくとも阻害はせずに、それを活かしつつ、かつそれによって人が集まったり、それによって他の地域が頼りにするという機能を持つものにするという考え方もあるのかなと思っています。

大畠座長            ありがとうございました。  
こうして跡地活用に関する意見の分類と整理ということで、事務局におかれましては非常に短期間の間にまとめていただき感謝しています。  
私も座長と言いながら一委員でありますので、私の思いは、これをまとめていただいたことに感謝するとともに、先ほど向井委員が言われたとおり、人が集まる街ということで、私もJRの延伸に関わっておりますので、その中で人の集まる街は発展の波が押し寄せてくると書いています。  
確かに人が集まらないことには発展はしないということで、先ほど、他の委員からもありましたように、まちづくりであるという観点から見たときに、ハコモノ1つつくって終わりですよというようなことではいかなものかなと個人的には思います。  
そういった中で、たくさんの意見が出ましたと同時に、いろんなイメージ的なものを出していただいたことには感謝いたします。  
これで、大体こういうものが跡地に入るのかなということ、これとこれができるのではないかというイメージが出てきたのではないかと思います。  
やはり地域でいろいろ議論をしていただいて、そしてまた他の地域の意見を聴いてみると、「あっ、そうかな。」と、これがまちづくりであろうかと思います。  
なにぶんにも7年も先のことを今議論していると言えはそうかもしれませんが、一方で目の前のことを議論しないと発展しないということもあるかと思いますので、そういう意味で受け止めたいと思います。  
この分類・整理について何か他に御意見はございませんか。  
なければ、もう1枚参考資料というものがありますが、こちら事務局から何か説明がございませうか。

事務局            「参考資料 安佐北区の幹線道路の整備状況」説明（企画総務局政策企画課）

大島座長

ありがとうございました。

前回の指摘を踏まえて少し修正したということですが、今後、こういうものが整備されていきますので、見ておいていただければと思います。

それでは、先ほどから出ていました区民文化センターの移転ということに関しまして、坊委員、あるいは阪谷委員からもありましたが、今後事務局で何かまとめてもらって、どういう議論を進めていったらいいかということを次回までに整理してみてくださいか。

これだけいろんな意見が出てきています。

また、先ほどもありましたように、耐用年数のことから言ったら7年後はまだ大丈夫じゃないかと、と言いながらまたそこでこの議論をするのでは、今回は千載一遇のチャンスでもあるということを考えると、やはり前倒しでも考えておくということになるかと思いますが、その点一つよろしくお願ひしたいと思います。

今日、予定の議事は以上ですが、皆さん方から今後どうしていったらいいかとか御意見はございますか。

または、事務局から何かございますか。

事務局

今回、施設や機能を分類・整理した資料を出させていただきましたが、実は、この資料は、単なるリストで、良い、悪いといった類の評価を全くしていません。

今後、これをもとに議論をして、絞り込んでいくような作業をしていかないといけないと思っています。

その際に必要な視点は、先ほど、坊委員や向井委員が言われましたが、賑わいをもたらすということで、そして、賑わいには質や種類があると思います。

ここに19の施設が整理されていますが、それぞれターゲットが異なり、お年寄りをターゲットにしたものなのか、子供をターゲットにしたものなのか、主なターゲットは可部地区なのか安佐北区なのか、そういったことをしっかり議論することによって、いずれ絞り込まれていくというように思っています。

次回以降は、皆さんの議論の参考になるよう、それぞれの施設のメリット、デメリットなど、客観的にその評価の参考になるようなことを付け加えたものを出させていただいて、しっかり議論をしていただければと思っています。以上です。（企画総務局政策企画課）

大島座長

ありがとうございました。

では、皆さんからその他、何かございますか。

松井委員

参考までにですが、高陽可部線は、この黄色い点線が入ったということですか。

事務局

高陽可部線と大毛寺線、それと中筋温品線を黄色い点線で、追加させていただきました。（安佐北区農林建設部）

向井委員

私、高陽ですが、今の土手筋にバイパスが作られることになっています。

今の高陽可部線、そして可部大毛寺線を通っていくことになると、すごく遠回りになってしまいます。

中島の踏切もあり、5分間に1回しか踏切が開かないということであれば、本当にいいのだろうかというようなことを思っています。

今の計画では、今の路線を通って、現病院のところを通って、上がって、また、下っていくというようなことになっています。

中島の踏切を渡って、また極端に、鋭角に曲がってというのではですね非常に難しく、使い勝手の悪いというようなこともありますので、中島駅よりも川寄りというか土手に真直ぐ上がるような、それよりも踏切を渡らずに土手に上がって直接に出るとかいうことを一つ考えていただきたいと思います。

松井委員

ハローワークのところから消防署に抜ける踏切がありますが、あそこが5分ごとに遮断された場合を試算してみたら、高陽から来た方が54号に抜けるのに6分かかります。

高陽可部線が可部大毛寺線と接続しても、可部線の踏切は3か所ありますので、何ができてでも大渋滞になりますので、やはり河川の護岸道路が早くできて、しかもそれに繋がる高陽可部線をJRの地下を潜るか、陸橋にしても、とにかくこの実現を早くしていただかないと救われる命も救われなと思います。

せっかく医療を充実した高度医療の救急体制が整うと言っても、そこに辿り着くまでが大変なので、10年先、20年先でも、これは考えていただきたいと思います。

この思いは皆さん一緒だと思います。

児玉委員

松井委員、向井委員から道路機能の重要性について、前回、前々回に続いて御指摘ありがとうございます。

ただ、跡地を活用するその時点にどういった道路が整備されている、あるいは整備中であろうかという短期・中期の視点も現実を考えるうえで必要なということで、先ほど、既に都市計画決定されている路線については、点線で表記をいたしたところで

す。ただ、議会において市の担当局長の答弁としてあったことを少し御紹介だけさせていただきたいと思うのですが、例えば高陽可部線については、「重要な路線であるとの認識はもちろんあります。ただし、既成市街地での用地買収、あるいは根谷川の橋梁の架け替え、JR可部線、国道54号を地下で横断する必要が出てまいります。ですから今回、高陽可部線、それから可部大毛寺線を病院開設までに整備すること、そのことによってまずは所要時間を短縮して、現在から改善を図り、ご要望の区間の事業化は地域住民の方々の意向や今回の整備による効果等を見極めながら次のステップとして位置付けた上で引き続き検討していきたい。」というのが市としての考えです。

向井委員

将来、考えますよ、考えますよということですが、やはり、まちづくりということになってくるといろんな考え方もあろうかとは思いますが。

確かに高陽と白木ということになると、アクセスが非常に困難だということもありますし、そしてもう一つは何ととっても根底には、過去、安佐北区を分区しようというようなことで進んでいましたが、途中から人口が10万人になったらということで、とうとう今まで頓挫してしまっているわけです。

この辺りが一つは、高陽、白木辺りとしては住民の悪い感情というか、今まで拠点として高陽も位置付けますと言いながら一向に拠点らしい拠点になっておらず、まちづくりについては、本当にこれからもやかましく言っていきたいと思っております。

先ほど、少しお話があって、今の文化センターの問題も、あれが古くなったらという話も一つあるかも知れませんが、高陽とすれば今の文化センターを跡地に持ってこられたら、近くになっていいじゃないかと考えられる方もいるかも知れませんが、そう

なると、高陽、白木地区は何もないところになってしまうと思います。

そこら辺りもよくよく心して考えていただきたいなと思っています。

また、これについては早急な議論を進めていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

尾田委員

3月2日に、安佐町のまちづくりについて集まって話をするわけですが、前回も言いましたが、必ず道路のアクセスの問題が出てきます。

私も前回、前々回と言わせていただいたんですが、特に横（東西方向）の線（道路）について市は本当に考えてくれているのか、3月2日に皆さんにお伝えしたいと思います。

このまま、考えます、考えますで何年も過ぎるのか、本当に考えていただいているのか、その辺のところはまちづくりに関連したところで必ず出てきますので、3月2日に私がどの程度話したらいいのか、この場でお話しできる範囲で結構なので聴かせて

いただけますか。

大畠座長 本来、この場合は跡地活用について議論する場なので、道の話は別の場でお願いしたいのですが。

尾田委員 跡地に繋がる道です。

大畠座長 では、事務局から何かございますか。

事務局 今、おっしゃったのは、久地地区から西に向けての道路ということだと思いますが、はっきり申し上げて、今そういう計画はありません。  
道路については、安佐北区全体、広島市全体の幹線道路の流れを考慮して計画していくことになります。  
当然、新しい道路を計画するということになれば、どういった利用をされるのか、本当に使われるのか、交通量はどのくらいが想定されるか、そういうことも十分に考えたうえで、必要性を判断していくことになると思います。  
おそらく「まちづくり懇談会」で御意見が出るとと思いますが、私どもが検討するとすれば、仮にその道路が整備された場合にどの程度、交通量があるのか、実際に必要性があるのかどうかを検討させていただくことになるかと思います。(安佐北区農林建設部)

尾田委員 新しい病院を荒下に作る时候にも私共お話ししたと思うのですが、現在は救急車で運ぶにしても非常に狭い道路で時間がかかります。  
例えば、久地で事故を起こした場合、安佐市民病院にどういうルートで搬送されるかという、救急車の場合は、狭い道路は通れないので、広い安全な道路を通っていくわけです。  
そうすると久地、久地南地区の人は、果たして安佐市民病院に行くのがいいのか、基町の市民病院に行くのがいいのか、安佐北区住民であれば安佐市民病院に行きたいと思うわけです。  
そういった意味で道路にどのくらい車が通るとかいうことは抜きにして、やはり住民の命、そういったことを考えていただいて前向きに検討していただきたいと思います。  
安佐地域は過疎になっていて、可部地区に行く車の量も少ないと思います。  
住民の命を守るための新しい市民病院だと思うので、そういったところも真剣に考えていただかないと、交通量とかいうことを言われると、過疎地はますます過疎になっていきます。  
その辺のところも市には十分に考えていただいて、道路というものは、ただ頻度（交通量）だけの問題ではなく、やはり住民の命を守るためにも広い道路で救急車が1分でも早く到着するようなことも考えていただかないと、過疎地はますます過疎地になります。  
以前、言いましたように久地とか、あさひが丘の住民は、安佐南区に変えてくれないかという意見も出ているわけです。  
その辺のところも十分に考えていただいて、頻度その他で道路を考えていただければ困るということはおっしゃいます。

大畠座長 事務局は、今の意見を十分に考えていただいて、よろしくお願いします。  
時間も参りましたが、次回については、今日出た意見を踏まえて事務局でまとめたいただきまして、あと2社残っている聞き取り調査もお願いしたいと思います。  
他、何かございませんか。  
なければ次回は、3月下旬に開催したいと思いますが、3月29日はいかがでしょうか。

(各委員から３月２９日について了承の発言あり。)

大畠座長

では、次回は３月２９日１４時からということにさせていただきます。  
以上で、本日の協議会は終わりにしたいと思います。各地域において結果を報告されたり、意見を聴かれたりして、非常に活発に病院の跡地活用以外のことも出てきていると思っています。  
是非、このまま続けていただいて、安佐北区のまちづくりに活かしていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。  
それでは長時間にわたり、ありがとうございました。

< 閉 会 >